

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600331		
法人名	有限会社 ナチュラルライフ		
事業所名	グループホーム 宝寿	ユニット名	にじ
所在地	〒437-1101 静岡県袋井市浅羽64-6		
自己評価作成日	2010.10.7	評価結果市町村受理日	平成23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276600331&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「尊敬のある、その人らしい、穏やかな生活」をケア理念に掲げ、たとえ認知症になっても最期までその人らしく、家庭的な環境の中で生活していけるよう、常に相手の立場に立って考えられるよう努めており、利用者御家族との関係づくりも大切にしていながら、個別支援が行えるよう取り組んでいる。また、夏祭りの開催においてはボランティアの要請、その他、高校生介護現場実習、中学生職場体験学習の受け入れ等行い、宝寿が地域の一人として暮らしていけるよう工夫と検討、実践を重ねている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上記ホームの理念の下に、「ゆっくり、一緒に、楽しく、そして豊かに」生活できるホームを目指し、管理者・職員が連携して取り組んでいる。利用者本位の取り組みは、「何でもノート」・「ナースノート」・「申し送りノート」等の支援記録に基づき、適切な介護に結び付けられている。家族に対しては「ご家族対応表」を用いて信頼関係を構築しており、評判も良い。ホームの立地が田圃の中で、日常的には地域との交流は難しい中で良く頑張っているが、防災については万が一のことを考え、一歩踏み込んだ協力関係作りが期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を事務所に掲示し、常に原点に戻り考えられるよう努めている。またホームの役割やその意義等も理解していけるよう、研修プログラムにも取り入れ、共有・実践とつなげられるよう計画している。	ホーム独自の理念として「尊厳のある、その人らしい、穏やかな生活」を掲げ、研修プログラム・事務所への掲示等を通じて、絶えず理念を意識し、全職員が共有してその実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行われるイベントに、地域住民、ボランティア等を招き、交流を図っている。今後は日常的に交流できるような工夫を検討し、企画として取り入れていく必要がある。	地域と事業所の公民館祭り・夏祭り・秋祭り等に相互に参加するとともに、ボランティアや中学・高校生の職場体験の受け入れもあり、地域との交流が着実に進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に比べると、散歩の途中等で気軽に挨拶を交わしてもらえる機会が増えてきているが、認知症の理解や支援方法を伝える機会については、まだまだ少ないのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者ご家族・民生委員・行政職員等を会議委員として、2か月に一度開催している。少しずつではあるが意見交換ができるようになっており、今後はその意見・提案等を反映し、実践・評価・改善に努めたい。	2か月に1回着実に開催されている。ホームからの実情報告をもとに、行政職員・自治会長・民生委員・利用者家族等の参加者との率直な意見交換が行われ、サービスの向上に活かす努力が払われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が市へ出向いた際には、事務的連絡だけではなく、介護保険関係の動き、事業所の現状等の情報交換も行えるよう取り組んでいる。	書類提出等は必ず窓口に出向き、情報交換を行っている。介護保険研究会・研修会・ケアマネ連絡会・地域福祉を考える会等にも参加し、共にサービスの質向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わない支援を定着しているが、常に現状について振り返り考え、知識としても吸収し、理解を深めていけるよう、身体拘束に関する資料を作成し、支援に取り組んでいる。	物理的な拘束のみならず、言葉や心理的な拘束等についても具体的な資料を作成して理解を深め、拘束しない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、資料を作成し、理解を深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	No.6, 7同様、資料を作成し、いつでも学ぶことができるようには努めているが、定期的な話し合いや活用とまで至るまでには、まだまだ時間が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際においては、あらかじめご家族等の状況等を把握しておき、少しでも不安を取り除けるよう努め、重要事項等の十分な説明を行い、理解を得た上で契約を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話連絡等において、事務的内容ばかりではなく、ご家族が不安や葛藤を少しでも打ち明けられるよう、普段からの関係づくりに取り組んでいる。	来訪・面会・電話等の様子を「ご家族対応表」に記録しており、表面的なことだけでなく、誰が何を伝え、その反応や要望・実はこうして欲しかった等の本音を感じ取り、それに対応する努力を継続している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	認知症ケアのプロとして、また、いち社会人としての心構えを持ったうえで業務が行っているよう、定期的な面談機会を設け、職員とのコミュニケーションを図っている。また、「何でもノート」を活用し、情報交換等を行い、事業所がより良い方向へ歩んでいけるよう努めている。	職員とは「何でもノート」を活用して普段のコミュニケーションが図られており、また「定期的な面談機会」を設け、職員の意見が反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとの面談をもとに、労働条件、雇用形態等個別に対応している。また個々の特性を見極め、それぞれの能力が活かされる現場環境であることを常に意識し、モチベーションを維持していけるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修制度を設け、年齢・経験等を考慮したカリキュラムを検討・作成し、研修者だけではなく、研修担当者自身の研修(打ち合わせ等)にも力を入れている。また、外部研修にも可能な限り受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内での役割を細分化し、地域・行政担当者が外部へ出向き、関係が途絶えることのないよう交流機会を作っている。また、法人内においても、各リーダークラスの打ち合わせ、他事業所巡回等を行い、問題抽出・事例検討・実践・評価と、常にサービスの質の向上を意識し、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の初期段階として、まずは何より、利用者本人のことをよく知ること、そして、環境の変化における不安や精神的不安を汲み取り、安全と安心を確保した関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から、ご家族の話には耳を傾け、現在の心境、また、利用後の不安・葛藤なども打ち明けて頂けるよう、関係づくりに努め、今後の支援に生かせるよう、また、少しでも安心していただけるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず解決していく優先順位を見極め、早めに対応していくもの、時間をかけ働きかけていく必要があるものとの区別をある程度つけられるよう、スタッフ間の情報交換・共有にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「何かしてあげる」という意識ではなく、共に暮らしていく同士として、また人生の先輩として敬いながら、思いやる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者は、ご家族にとって大切な存在であることを頭に置き、スタッフのみの視点・想いで支援を進めていくのではなく、ご家族の想いを可能な限り反映していけるよう、連絡・相談を重ね、協力を得られるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たとえ馴染みの場所や人の元へ出向く機会が限られたとしても、電話や手紙等の連絡手段を活用することや、ご家族の協力を得るなど支援に努めているが、以前と比べ、その機会が薄れている。	馴染みの人や場所への関心が、少しずつ薄れては来ているが、電話や手紙等による連絡手段を活用したり、家族の協力等を得ながら、大切な関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに支え合い、分かち合える関係が保たれるよう、スタッフの介入方法やタイミング等を工夫し、一人ではないことを感じられる、互いに認め合える場所作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所で開催されるイベントの案内連絡を入れる、必要に応じてこちらからも経過確認の連絡を入れるなどし、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な場面において、利用者の思いが感じ取れるよう、他愛ない会話やつづやきの中であっても、気になるところはスタッフ同士で話し合い、「この人にとって・・・」という捉え方を基本に検討している。	入所時のアセスメントで利用者の生活歴を幅広く把握し、入所後の観察の中から思いや意向を「なんでもノート」に記録・把握し、少しでも本人の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、利用者家族に、本人の生活歴全般における情報をまとめて頂き、入居後の本人の生活の中に、以前の生活が少しでも保たれ、馴染みのある暮らしを取り入れられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートの一部を活用する機会を作り、本人の様々な部分に焦点を置き情報収集を行っている。また、日中・夜間での様子を必ず申し送り伝え合うことで情報の共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段、何げない会話や仕草から感じられる課題等を共有できるようノートを活用したり、ご家族とのやり取りの中から得られる情報(要望や相談)等を記録に残し、多面的な介護計画であるよう努めている。	普段の家族との会話や本人の何気ないつぶやきを何でもノートに記入し、ケアプランの作成や見直しに反映させている。又、利用者に変化が生じた場合も、その都度プランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報収集・課題抽出・実践・評価及び見直しという流れを作り、統一した支援が行われるよう記録に残す、伝え合う作業を大切にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「この人はこういう人だから・・・」という固定観念に捉われない、常に目の前にいる方を純粋に見つめ、たとえささいなことであっても、可能な限り実現できるよう対応することや、小さな変化に気づける観察力を身につけられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での祭りなどに関わることで入居者には楽しんでもらえるよう支援しているが、もっと多くの関わりが持てるよう努力が必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連絡を定期的に行い、必要に応じて往診に来ていただく等していく中で、あらかじめ考えられる状況を想定し、スタッフができる限り行える対応方法も学び、ご家族にも状況説明・理解を得たうえで支援が行えるよう努めている。	本人や家族が希望する主治医に受診することはできるが、入居時、往診に来てくれる近隣の協力医に変更される利用者が多い。受診内容はその都度、家族に報告しており、適切な医療を受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的観点からの助言・アドバイスを取り入れ、介護的観点とのバランスが保たれる方法を検討しており、個々にあった支援を常に行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	万が一、利用途中に入院された場合には、ご家族の不安や負担にも配慮し、本人が少しでも安心して入院生活が送れるよう努めている。また、病院関係者との関係づくりにおいては、担当者が限られており、繋がりがまだまだ薄い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急事態に直面した場合においてのご家族の精神的負担を考え、普段から本人の状況は定期的に連絡することを心がけ、同意書記入等を行い、今後予想される状態においての意向をあらかじめ確認させていただく機会を作っており、ご家族、本人の意向を最大限尊重していけるよう、医師との連携、スタッフ間の連携にも力を入れている。	早い時期から本人や家族との話し合いは行われている。医療的なことを記入するナースノートや個人的な終末期のあり方についてのマニュアルは作成しているが、全職員共有のマニュアルの作成までには至っていない。	個人的なマニュアルに留まらず、事業所として重度化した場合や終末期のあり方、方針の統一のためのマニュアルの作成を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況別対処法マニュアルを作成しており、あらゆる状況においても最低限の対応は行えるよう、普段から確認できる場所に保管している。初期対応の訓練を実施するところまでには至っていないが、何か対応した場合には常に記録に残し、実践に生かせるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での訓練を通し、災害に対する意識を高めていけるよう、今後も訓練の継続、全スタッフへの意識の浸透に努めたい。また、災害時対応マニュアル等の作成、備蓄管理等も進めていく必要がある。	年2回の訓練実施や今年度中スプリングラー設置予定など、全スタッフの意識を高めているが、地域住民の参加、協力体制までには至っていない。	地域の防災訓練に参加したり、事業所で地域に貢献できる事の提案を行うことにより地域との協力体制を築くと共に、備蓄管理も含め早急に防災の整備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際は、ほかの入居者に聞こえないように声を掛けたり、大声で“トイレ”“便所”等と言わないようにしている。また、失禁した場合には、相手を傷つけないよう、相手の気持ちを考え対応している。	言葉での誘導は極力さけており、手招きなどで人目のつかないところに誘導してからトイレに案内している。書類の管理も事務所でいい、気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、入居者と何でも話せる、何でも言い合える関係づくりに努めている。食事の面では、「好き」「嫌い」「食べたくない」等自分の意思をはっきり言われ、食べたいもの・食べられるものをスタッフが提案し入居者に決めてもらう機会も作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを把握し、その日の体調に合わせて支援ができるよう努めている。(例)調理や庭作業等を負担とならずにすぎないよう必ず様子を見守り、休息を取りながら行っていただく。そういった中で、やりがいや充実感を得られるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に必ず整髪・洗顔をしている。本人より希望があれば、化粧をしたり、マニキュアを塗る等し、いつまでも女性であることを忘れないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせてメニューを考えている。毎日検食簿を記入し、入居者に好評か不評かを分かりやすくしてあり、不評なものに関しては改善していくよう努めている。入居者が手伝ってくれる場合は必ず、“スタッフと一緒に”を徹底している。	施設内で職員が食事を作っているため材料を切ったり、後片付けを手伝ってくれる入居者もいる。調査当日、後片付けが終わった後、流しなど水回りを一生懸命に綺麗にしている入居者が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3度の食事時間にこだわらず、食べたい時に食べられるものを提供していく中で、個々の能力を考慮し、バランスにも可能な限り配慮した形態を工夫している。水分はお茶だけでなく牛乳やスポーツ飲料、飲料ゼリーなど様々な物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔内に食べ物が残っていないか必ず確認を行っている。うがいや歯みがきが難しい方に対しては、水分を多めに摂ってもらうなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日状況チェック表に記入し、排泄パターンを把握するようにしている。何気ない仕草や言動から読み取り、さり気なくトイレ誘導し、排泄できるように支援している。	排泄パターンを把握し、時間と本人の雰囲気、声掛けをしている。全介助で入居してきた利用者が身体レベルの向上もあり、車いすを自走してトイレにまで行けるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然な排便を目指して支援しているが、便秘が続く場合には医師に相談し、薬を処方してもらっている。水分を多めに摂ってもらう、普段おむつを使用している方でもトイレに座ってもらい、腹圧がかかりやすくする等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるよう、曜日や時間帯にこだわらず支援している。基本的には、1対1でゆっくり入浴してもらえよう努めている。	利用者の希望に合わせて入浴の声掛けをしている。最低でも週2~3日の入浴を行っており、毎日入浴する利用者や夕食後に入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、日中も横になれる時間を作るようにしている。夜間はスタッフの都合ではなく、入居者の日中の過ごし方や眠気に合わせて入床をしている。午後～夜にかけてTVの音量を下げ、静かにしたり、カーテンを閉め徐々に暗くして夜に近づいたことを意識してもらえるような工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用の情報がいつでも共有、また確認できるよう記録の中に閉じてあり、理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや掃除、食事作り等、一人一人に合わせて無理のないよう活動している。家の中だけでなく、外出したい時には可能な限り外出できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って支援している。当日行けない時には、スタッフ間で話し合い企画を立てて行けるよう努めている。家族の協力を得ながらお墓参り等にも行くことが可能。	職員と一緒に近くのコンビニやスーパーに買い物に出掛けている。花の好きな利用者は毎日庭に出て花壇の手入れをしている。外食の好きな利用者には職員付き添いで昼食に出掛けたり、四季の花見にも出掛けたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者や家族の希望に応じて、お金の所持をしてもらっている。買い物に行った際には、入居者本人が支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合には、まずスタッフが相手に連絡し、了解を得たうえでやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	7月に居間のテーブルを明るい色の物にし、以前よりも明るい雰囲気になった。共有の空間・居室は毎日掃除し、清潔を維持できるよう努力している。スタッフや家族が、花を持ってきて居間に飾り、季節を感じるができる。	畳の敷かれた居間からは縁側の向こうに広々とした庭が眺められる。利用者がいつも座るテーブルの上にはお気に入りの人形が置かれていたり、物音が響かないようにあえてスリッパを履かないなどの工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でゆっくり新聞を読んだり、歌のビデオを流し同じ趣味の方同士が楽しんだりできるようさり気なく支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物を、使い慣れた物にもらうことで、安心して生活できるよう工夫している。	今まで自宅で使用していたタンスや仏壇、御主人との思い出の品々を飾り、花やお茶をあげたり、本人お気に入りのスターの写真を飾り自分の部屋らしく落ち着ける雰囲気となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない安全な作りとなっている。居室の入り口には、一人一人表札をつけてわかりやすくしている。湯のみや箸、茶碗は高い所に置かず、手の届くところに置いてある。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600331		
法人名	有限会社 ナチュラルライフ		
事業所名	グループホーム 宝寿	ユニット名	ひかり
所在地	〒437-1101 静岡県袋井市浅羽64-6		
自己評価作成日	2010.10.7	評価結果市町村受理日	平成23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276600331&SCD=320>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行ききたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を事務所に掲示し、常に原点に戻り考えられるよう努めている。またホームの役割やその意義等も理解していけるよう、研修プログラムにも取り入れ、共有・実践とつなげられるよう計画している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行われるイベントに、地域住民、ボランティア等を招き、交流を図っている。今後は日常的に交流できるような工夫を検討し、企画として取り入れていく必要がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に比べると、散歩の途中等で気軽に挨拶を交わしてもらえる機会が増えてきているが、認知症の理解や支援方法を伝える機会については、まだまだ少ないのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者ご家族・民生委員・行政職員等を会議委員として、2か月に一度開催している。少しずつではあるが意見交換ができるようになっており、今後はその意見・提案等を反映し、実践・評価・改善に努めていけるようにしたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が市へ出向いた際には、事務的連絡だけでなく、介護保険関係の動き、事業所の現状等の情報交換も行えるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わない支援を定着しているが、常に現状について振り返り考え、知識としても吸収し、理解を深めていけるよう、身体拘束に関する資料を作成し、支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、資料を作成し、理解を深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	No.6, 7同様、資料を作成し、いつでも学ぶことができるようには努めているが、定期的な話し合いや活用とまで至るまでには、まだまだ時間が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際においては、あらかじめご家族等の状況等を把握しておき、少しでも不安を取り除けるよう努め、重要事項等の十分な説明を行い、理解を得た上で契約を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話連絡等において、事務的内容ばかりではなく、ご家族が不安や葛藤を少しでも打ち明けられるよう、普段からの関係づくりに取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	認知症ケアのプロとして、また、いち社会人としての心構えを持ったうえで業務が行っていけるよう、定期的な面談機会を設け、職員とのコミュニケーションを図っている。また、「何でもノート」を活用し、情報交換等を行い、事業所がより良い方向へ歩んでいけるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとの面談をもとに、労働条件、雇用形態等個別に対応している。また個々の特性を見極め、それぞれの能力が生かされる現場環境であることを常に意識し、モチベーションを維持していけるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修制度を設け、年齢・経験等を考慮したカリキュラムを検討・作成し、研修者だけではなく、研修担当者自身の研修(打ち合わせ等)にも力を入れている。また、外部研修にも可能な限り受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内での役割を細分化し、地域・行政担当者が外部へ外向き、関係が途絶えることのないよう交流機会を作っている。また、法人内においても、各リーダークラスの打ち合わせ、他事業所巡回等を行い、問題抽出・事例検討・実践・評価と、常にサービスの質の向上を意識し、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の初期段階として、まずは何より、利用者本人のことをよく知ること、そして、環境の変化における不安や精神的不安を汲み取り、安全と安心を確保した関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から、ご家族の話には耳を傾け、現在の心境、また、利用後の不安・葛藤なども打ち明けて頂けるよう、関係づくりに努め、今後の支援に生かせるよう、また、少しでも安心していただけるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず解決していく優先順位を見極め、早めに対応していくもの、時間をかけ働きかけていく必要があるものとの区別をある程度つけられるよう、スタッフ間の情報交換・共有にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「何かしてあげる」という意識ではなく、共に暮らしていく同士として、また人生の先輩として敬いながら、思いやる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者は、ご家族にとって大切な存在であることを頭に置き、スタッフのみの視点・想いで支援を進めていくのではなく、ご家族の想いを可能な限り反映していけるよう、連絡・相談を重ね、協力を得られるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たとえ馴染みの場所や人の元へ出向く機会が限られたとしても、電話や手紙等の連絡手段を活用することや、ご家族の協力を得るなど支援に努めているが、以前と比べ、その機会が薄れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに支え合い、分かち合える関係が保たれるよう、スタッフの介入方法やタイミング等を工夫し、一人ではないことを感じられる、互いに認め合える場所作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所で開催されるイベントの案内連絡を入れる、必要に応じてこちらからも経過確認の連絡を入れるなどし、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な場面において、利用者の思いが感じ取れるよう、他愛ない会話やつぶやきの中であっても、気になるところはスタッフ同士で話し合い、「この人にとって・・・」という捉え方を基本に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、利用者家族に、本人の生活歴全般における情報をまとめて頂き、入居後の本人の生活の中に、以前の生活が少しでも保たれ、馴染みのある暮らしを取り入れられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートの一部を活用する機会を作り、本人の様々な部分に焦点を置き情報収集を行っている。また、日中・夜間での様子を必ず申し送り伝え合うことで情報の共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段、何げない会話や仕草から感じられる課題等を共有できるようノートを活用したり、ご家族とのやり取りの中から得られる情報(要望や相談)等を記録に残し、多面的な介護計画であるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報収集・課題抽出・実践・評価及び見直しという流れを作り、統一した支援が行われるよう記録に残す、伝え合う作業を大切にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「この人はこういう人だから・・・」という固定観念に捉われず、常に目の前にいる方を純粋に見つめ、たとえささいなことであっても、可能な限り実現できるよう対応することや、小さな変化に気づける観察力を身につけられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での祭りなどに関わることで入居者には楽しんでもらえるよう支援しているが、もっと多くの関わりが持てるよう努力が必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連絡を定期的に行い、必要に応じて往診に来ていただく等していく中で、あらかじめ考えられる状況を想定し、スタッフができる限り行える対応方法も学び、ご家族にも状況説明・理解を得たうえでの支援が行えるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的観点からの助言・アドバイスを取り入れ、介護的観点とのバランスが保たれる方法を検討しており、個々にあった支援を常に行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	万が一、利用途中に入院された場合には、ご家族の不安や負担にも配慮し、本人が少しでも安心して入院生活が送れるよう努めている。また、病院関係者との関係づくりにおいては、担当者が限られており、繋がりがまだまだ薄い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急事態に直面した場合においてのご家族の精神的負担を考え、普段から本人の状況は定期的に連絡することを心がけ、同意書記入等を行い、今後予想される状態においての意向をあらかじめ確認させていただく機会を作っており、ご家族、本人の意向を最大限尊重していけるよう、医師との連携、スタッフ間の連携にも力を入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況別対処法マニュアルを作成しており、あらゆる状況においても最低限の対応は行えるよう、普段から確認できる場所に保管している。初期対応の訓練を実施するところまでには至っていないが、何か対応した場合には常に記録に残し、実践に生かせるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での訓練を通し、災害に対する意識を高めていけるよう、今後も訓練の継続、全スタッフへの意識の浸透に努めたい。また、災害時対応マニュアル等の作成、備蓄管理等も進めていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際は、ほかの入居者に聞こえないように声を掛けたり、大声で“トイレ”“便所”等と言わないようにしている。また、失禁した場合には、相手を傷つけないよう、相手の気持ちを考え対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、入居者と何でも話せる、何でも言い合える関係づくりに努めている。食事の面では、「好き」「嫌い」「食べたくない」等自分の意思をはっきり言われ、食べたいもの・食べられるものをスタッフが提案し入居者に決めてもらう機会も作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを把握し、その日の体調に合わせて支援ができるよう努めている。 (例)調理や庭作業等を負担となりすぎないように必ず様子を見守り、休息を取りながら行っていただく。そういった中で、やりがいや充実感を得られるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に必ず整髪・洗顔をしている。本人より希望があれば、化粧をしたり、マニキュアを塗る等し、いつまでも女性であることを忘れないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせてメニューを考えている。毎日検食簿を記入し、入居者に好評か不評かを分かりやすくしてあり、不評な物に関しては改善していくよう努めている。入居者が手伝ってくれる場合は必ず、“スタッフと一緒に”を徹底している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3度の食事時間にこだわらず、食べたい時に食べられるものを提供していく中で、個々の能力を考慮し、バランスにも可能な限り配慮した形態を工夫している。水分はお茶だけでなく牛乳やスポーツ飲料、飲料ゼリーなど様々な物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔内に食べ物が残っていないか必ず確認を行っている。うがいや歯みがきが難しい方に対しては、水分を多めに摂ってもらうなどの工夫をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日状況チェック表に記入し、排泄パターンを把握するようにしている。何気ない仕草や言動から読み取り、さり気なくトイレ誘導し、排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然な排便を目指して支援しているが、便秘が続く場合には医師に相談し、薬を処方してもらっている。水分を多めに摂ってもらう、普段おむつを使用している方でもトイレに座ってもらい、腹圧がかかりやすくする等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるよう、曜日や時間帯にこだわらず支援している。基本的には、1対1でゆっくり入浴してもらえるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、日中も横になれる時間を作るようにしている。夜間はスタッフの都合ではなく、入居者の日中の過ごし方や眠気に合わせて入床をしている。午後～夜にかけてTVの音量を下げ、静かにしたり、カーテンを閉め徐々に暗くして夜に近づいたことを意識してもらえるような工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用の情報がいつでも共有、また確認できるよう記録の中に閉じてあり、理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや掃除、食事作り等、一人一人に合わせて無理のないよう活動している。家の中だけでなく、外出したい時には可能な限り外出できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って支援している。当日行けない時には、スタッフ間で話し合い企画を立てて行けるようよう努めている。家族の協力を得ながらお墓参り等にも行くことが可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者や家族の希望に応じて、お金の所持をしてもらっている。買い物に行った際には、入居者本人が支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった場合には、まずスタッフが相手に連絡し、了解を得たうえでやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	7月に居間のテーブルを明るい色の物にし、以前よりも明るい雰囲気になった。共有の空間・居室は毎日掃除し、清潔を維持できるよう努力している。スタッフや家族が、花を持ってきて居間に飾り、季節を感じる事ができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でゆっくり新聞を読んだり、歌のビデオを流し同じ趣味の方同士が楽しんだりできるようさり気なく支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物を、使い慣れた物にもらうことで、安心して生活できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない安全な作りとなっている。居室の入り口には、一人一人表札をつけてわかりやすくしている。湯のみや箸、茶碗は高い所に置かず、手の届くところに置いてある。		